

◎ 第1回調査

【調査日】 2006年6月1日(木)

【調査地】 湯山池、一の山、二の山、駒馳山、
穴観音、巖石尊、戎の宮、山名氏内
室墓、矢尾左衛門墓、細川長者屋敷
跡、田後浦ほか

この日は好天に恵まりました。霧降ヶ飛泉に行く道は、落石のため通行止め。思わぬ障害に出会うこともあります。



調査に出かける

◎ 第2回調査

【調査日】 2006年9月25日(月)

【調査地】 浦富荒砂神社、香林寺跡、牧谷大石
燈籠、夜啼地藏、羽尾浦双子島・万
燈島、長谷寺ほか

後期の始まる前に2回目の調査に出かけました。長谷寺ではいろいろな話も聞かせてもらいました。一日の最後に、嶋根の水の場所を探したのですが、見つかりませんでした。



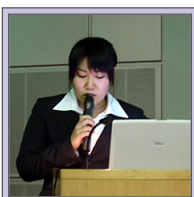
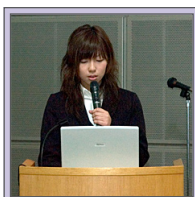
◎ 第3回調査

【調査日】 2006年11月4日(土)

【調査地】 霧降ヶ飛泉、網代浦、千貫松、虚空
蔵菩薩、菜種島、黒島、七坂八峠、
陸上村、牧谷蔵王権現、嶋根の水ほか

午前中は、浦富海岸遊覧船をチャーターして、岩戸から陸上まで海岸一帯を船から見て回りました。午後、陸上の近くにあるはずの盗賊穴の場所を探したのですが、ここも見つかりませんでした。





地域文化調査発表会

【開催日】2007年1月13日(土)
【場所】鳥取県立県民文化会館第一会議室



無駄安留記調査発表

平成 19 年 1 月 13 日 (土)
地域文化調査発表会
鳥取県立県民文化会館

はじめに

・無駄安留記とは

- ①成立…安政 5 年 1858 年上巻・下巻成立。明治 10 年前後に拾遺巻成立。その間に上巻・下巻に加筆された。
- ②作者…米 逸見。幕末から明治頃の鳥取の商人であったとされる人物によって書かれた。
- ③内容…現在の鳥取県東部地域にあたる因幡国は、幕末期には 8 郡に分かれており、それらは邑美(おうみ)郡、岩井郡、法美郡、高草郡、気多(けた)郡、八上(やかみ)郡、八東郡、智頭郡と呼ばれていた。それぞれの郡について風景、景観、名所、旧跡について簡略な地誌的記述、絵、自作の狂歌や和歌をあげたもの。

①網代港(岩美町網代)

(玉木)

- ・網代港は古くから漁港として漁民の根拠地として栄え、天然の良港であった。しかし、冬は季節風に悩まされていた。

↓
そのため、安政期から文久期にかけて防波堤工事を行うこととなる。

- ・改修工事の目的・・・①豪雨による水害の防止

↓
②藩米の積み出し港の任にあてると

↓
その結果、網代港は 1951 年に第 3 種漁港に認められる。

現在の網代港

- ・主な漁獲物としてカレイ、カン、タラ、イカ、シイラなどが多く、特に松葉ガニの水揚げが多い。
- ・主な漁業として沖合底引網漁業、採貝業、小型底引き網漁業がある。

②岩本邑網代寺(岩美町岩本)

(尾崎)

1. 無駄安留記の記述

- (1) 本文
- (2) 狂歌

2. 「網代」の名前の由来

- ・正平 15 年(1360)に建てられた釣鐘に「因州巨港(この)郡阿代寺」とある。
- ・「阿代」の「阿」は「湾曲して入り組んだところ」という意味。
- ・応長元年(1311)創建された網代寺の寄進状に「網代」と表記されている。
- ・「網代」とは、漁夫が網の所有者に支払う網の使用料のこと。

3. 阿代寺の梵鐘

- ・もと因州巨港郡岩井庄阿代寺の鐘。
- ・1887 年(明治 20)頃、網代の山麓から出土。
- ・正平 15 年(1360)11 月に大願主・僧行快が寄進したもの。
- ・鐘身 59cm、口径 3.3cm、総高 79.5cm、口径 49.2cm。
- ・現在は県立博物館に置かれている。

③虚空蔵菩薩(岩美町網代)

(坪本)

1. 虚空蔵菩薩(こくうざうぼう)とは

- ・虚空のように広大無辺の福德・智慧を蔵して、衆生の諸願を成就させるという菩薩。
- ・十三参り・・・京都の法輪寺が有名。
- ・信仰はバラエティに富み、網代では海の守護神として祀られている。
- 2. 虚空蔵山(こくざうやま)
- ・虚空蔵菩薩を祀った祠があることから、この名が付いた。

3. 浦富八景

- ・国府屋敷が浦富海岸を称えて作詩した漢詩の連作が「浦富海岸八景詠」。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 屏風岩「屏風岩帰帆」 | 5 築港五島「築港鳴鐘」 |
| 2 龍神洞「龍神洞晴嵐」 | 6 鴨ヶ磯「鴨鴨磯落雁」 |
| 3 蔵王嶋「蔵王嶋夕照」 | 7 千貫松島「千貫松移雪」 |
| 4 荒砂神社「荒砂祠秋月」 | 8 虚空蔵山「虚空蔵夜雨」 |

④岩美郡岩常二上山城(岩美町岩常)

(八田)

- ・文和年中(1352～1355)、山名時氏により築城される。別名岩常城。一後に因幡の守護所に。
- ・古地…丘陵部。標高 346 メートル・比高 340 メートル
- ・軍事的・戦略的にも非常に優れた立地条件
- ・南北朝間の特徴を持つ構造(山城)
- ・文正元年(1466)、山名時義が布勢天神山城に移るまで山名氏の因幡拠点であった
- ・1580 年、織田信長の中国平定軍に追い、羽柴秀吉により毛利方として落城、のち慶長 5 年(1600)関ヶ原合戦で没落、のち廃城と伝えられる

三上兵庫頭

→勝豊の移住後山下の治安が見れたために、天文の頃に地元の要請があり、但馬山名家から三上兵庫（東陽威主が霊宿）が迎えられ、二上山城へ入。しかし二上山城は高い山の上有り、不便であったため新井村に新しく道竹城を築き移住した。

⑤長谷寺（岩美町長谷）

（岡村）

無駄安留記本文記述

尼寺 什物 頂戴の横石、寿老人、そのほか数品経典御歌などあり。堂宇美なり。

現代語訳

尼寺で置いてある物品としては頂戴した横石、寿老人、そのほか数点経典や和歌などがあり、その堂内は美しい。

注

什物（じゅうぶつ）…調度品や家具などの物品。

横石（ろうせき）…棚のような光沢のある綺麗な石。神社の御神体などに時折使われる。

堂宇（どうう）…お堂の中、堂内。

⑥穴観音（岩美町大谷）

（岸田）

「大患なる かげおがまむと 土あなに

はむこむむとも ありとこそ見れ」

（『無駄安留記』より）

・岩美町大谷、鵜馳山（しちやま）の南東に位置する。

・元は「穴観音古墳」という古墳の横穴式石室内部に、3 3体の石造観音菩薩が安置されていた。

→平成二年、石室崩壊の危険性のため、観音像は取り出され別に安置所が設けられた。

「穴観音古墳」の近くに安置所が設けられている。

⑦牧谷の夜鳴き地蔵（岩美町牧谷）

（川添）

1) 「無駄安留記」の記述について

2) 現在の夜鳴き地蔵の場所

3) 夜鳴き地蔵の変遷の様子

4) 「無駄安留記」の絵と現在の様子の比較

5) 「因幡証」と「無駄安留記」の絵の比較

6) 「因幡証」の夜鳴き地蔵の記述

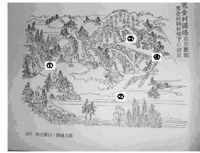
7) 最後に

⑧荒金山中国峰と牧谷蔵王権現（岩美町荒金集落、牧谷）

（山根）

国峰＝岩美郡岩美町荒金集落の南方にある、標高555メートルの山。別名、行者山

因幡国の国の峯



① 弁天社

② 大返し「人跡希なる深山登り下り難題を経て大返りの岩間・・・」

③ 行者堂

④ 焚けのこりの祠

狂歌 「国峯や燈の各絶えし巖にも
花の緋のみときむすかけ」

牧谷蔵王権現＝岩美郡岩美町牧谷、標高328メートル

の金峯山の山頂付近にある

現在は金峯神社 蔵王権現を勧請

（行者山は金峯山や牛々峯と合わせてひとつの修験道場）

→ともに荒廃

→行者山＝保存の方向、金峯山＝車道の建設、旧道の消滅

3 ページ

4 ページ

『日本海新聞』2007年1月14日